

rongorongongo

茨城キリスト教大学
文化交流学科

題字の背景画像は rongorongongo の文様から作成したものです

茨城キリスト教大学文学部文化交流学科 〒319-1295 茨城県日立市大みか町6-1-1-1 TEL 0294-52-3215 FAX 0294-52-3493

イギリス ヘンリー大学短期留学 いちいち感動してしまった

文化交流学科1年次 野澤 眞貴

最幸で最高の一カ月

間だった。

ほんつとに楽しかった!! イギリスに留学してまず思うことはその一言だ。留学して本当によかった。もちろん、ただ楽しかっただけじゃない。この夏の経験は、この先の自分の人生において、大きく影響することは確かだ。その証拠に、以前より自分の将来について深く考えるようになり、具体的な将来像も見えてきた。たったの一カ月。だが、そんな短い期間だったからこそ、毎日が特別で貴重な時間だった。

正直、日本を出発する前は不安と寂しさで頭はいっぱいだった。しかし、出発の飛行機に乗りこんだときには、ふっきれたせいかわろんな不安もどこかへ消えていて、これから始まる約一カ月に期待でわくわくしていた。

ロンドンの空港に着いた時は、あちこちから聞こえてくる言葉や、看板・標識に書かれている文字をみて、もう日本ではないことを実感した。何気なく人々を観察していると、たまに目が合うのだが、ほとんどの人がニッコリほほ笑んでくれる。思わずキュンとしてしまう。日本人が外国人に親切なのと同じ感覚なのかもしれないが、なんとも素敵な笑顔が



が、ほとんどの人がニッコリほほ笑んでくれる。思わずキュンとしてしまう。日本人が外国人に親切なのと同じ感覚なのかもしれないが、なんとも素敵な笑顔が

たまらない。単純な私は、もうこれだけでイギリスが大好きになった。ただ単に、イギリスとかヨーロッパとかいう言葉に酔っていたのかもしれない。とにかく目に映るもの全部が素敵に思えた。

イギリスでの学校生活が始まると、すぐに他の国からきている留学生と友達になれた。英語ができないなりに、知っている単語を一生懸命つなぎ合わせる。あとは気持ちだ。すると、案外伝わるもので、いちいち感動してしまった。友達ができること、英語ができる、できないは、あまり関係ないみたいだ。もちろん、英語をたくさん話せるに越したことはないけれど、最初の一週間は授業で先生が何を話しているのか、まったく理解不能だった。先生がホワイトボードに書き込んでいるのを見て、だいたいの内容をつかむのがやっとだ。でも、なんだかそんな状況も楽しい。分からないままでも、毎回、素直に分らないと伝えると、理解している友達が教えて

【7面に続く】

ひたちサンドアートフェスティバル in 河原子



7月17日、日立市河原子海水浴場にて「ひたちサンドアートフェスティバル」2010 in 河原子が開催された。本学の岩間ゼミや美術部の学生なども参加し、企画を盛り上げた。高さ4mの砂像や中型、小型砂像などが展示された。また、子ども達による

ダンスや地元店舗による出店、夜には音楽に合わせて打ち上がる劇場型花火が催された。

プロの彫刻作品に圧倒される人、劇場型花火では感動して涙を流す人もいたそう。

【編集部 佐々木】

10年10月号目次

- ◆ 1面
ひたちサンドアート
- ◆ 1・7面
イギリス短期留学
- ◆ 2・3面
アジアンボランティア
- ◆ 瀧野ゼミイベント
- ◆ 4・5面
若間先生インタビュー前篇
- ◆ 6面
教育実習報告
- ◆ 富士登山報告
- ◆ 7面
情報とセキュリティ講演会
- ◆ 「大回廊計画」に注目
- ◆ 8面
就職活動報告
- ◆ アジアンバザール予告
- ◆ 編集後記

美術部の作品



文化交流プロジェクトアジアンボランティア リング村に電気がやってきた

思いのほか

クメール語はおもしろく

文化交流学科1年次 勝山友里恵



屋の飛行機便で出発したためにカンボジアに着いた

カンボジアに行こうと思った動機は、単純に海外に行ってみたということだった。日本とは違う何かを見てみたい、触れてみたい。せっかくな文化交際学科に入ったのだから、何か一つくらいはそういうことをやっておかないかと考えた。このプログラムに参加することを決めた。

現地の通訳の人たちと会って、すぐには上手く話すことは出来なかつたけれど、相手が積極的に話しかけてくれるのが嬉しくて、私も自分から話そうと日本語と英語を組み合わせて話すと、みんなOKサインを出してニコッと笑ってくれて、それだけだと、

た。単語しか言えない時は、ジェスチャーも入れてなんとかわかってもらおうように必死になって、会話(?)するのがなんだか楽しかった。分かってもらえた時は嬉しいけれど、ちゃんとした会話を英語でしたいと強く願った。

友好学園では子供たちの元気に圧倒されることも多かった。授業中でも元気がよく質問に答えてくれて、「せんせいー」と呼んで積極的に質問してくれる子が何人もいて、学習意識が本当に強いのだと思いつづけた。自分が生きてきた中でこんなにも堂々と手を挙げて、声を発したことがあつたのだろうかと思いつづかしくなつた。

私たちが日本語を教える代わりに、子供たちからクメール語を教わつた。思いのほかクメール語は面白い、発音こそ難しかったが話せると一気に嬉しくなつた。覚えての言葉を上手く言えたら、みんなOKサインを出してニコッと笑ってくれて、それだけだと、

そうやって話すことがすごく楽しいことで充実感が得られたと思う。最初は不安があつた。でもそれは何かをやるには拭うことのできないもので、いつも付きまとうものなのだから、仕方が無いことだと思ふ。けれど、その不安を抱えてまでもカンボジアに行つた価値は確実にあるものだった。本当に行つてよかったと思つている。そして、カンボジアに行つたということに絶対は無駄にしたいと思つた。

心配しながらもお金をだしてくれた親や、お世話になつた先生や先輩がたにも、感謝しています。ありがとうございました。

夏休みにカンボジアの田舎のカンボジア日本友好学園(中高)を訪問し、2週間、日本語と英語のボランティア授業をする活動を始めて7年目になる。最初の年は総勢5名(うち本学学生2名)だったが、今年には本学学生を主体とする23名の若者と、現代英

語学科のステイブンス氏および文化交流学科の藤田の総勢25名で実施。友好学園滞在が8月29日から9月11日まで。カンボジアの首都プノンペン集合・解散というちよつとハードルの高い設定だが、1年生も多数参加して頼もしいところを見せてくれた。

授業の対象は主に中学1年生だが、友好学園を卒業した大学生にアシスタントを頼んだので、学生同士の交流も活発だった(宴会も)。今年、午前中の授業以外にもいくつか新しい試みを導入した。ひとつは、友好学園創立者のコン・ボーン氏にポ

のが夜中になってしまつた。トゥクトゥクという乗り物でホテルに向かつたのだが、そのときに乗つた初めでのトゥクトゥクが忘れられない。夜中なので車が少ないから、運転手のおじさんが思いっきりスピードを出して走つていたので、涼しい風が気持ちよくて本当に最高の気分だった。

私がこのプログラムに参加した理由は発展途上国に興味があつたからだ。どうしてカンボジアに行きたいというわけではなかつたが、良いタイミングでこのプログラムの話を聞き、何もしないで夏休みを過ごすなら興味のあることをやってみようと思ひ参加した。

私のカンボジアの知識は、アンコールワットがあるところ、暑いところくらいで、正直いつどこにカンボジアという国があるかも分からなかつた。そんな状態でまずタイに到着した。タイで印象に残つているのがトゥクトゥクというバイクに荷台が付いたようなタクシード。

タイからバスで国境を越えカンボジアに着いた。タ

カンボジアってすばらしい

文化交流学科1年次 内田裕人



タイルの床にゴザと蚊帳を張っただけの寝床で腰が痛くなったこと。唯一飯は管理人さんが作ってくれたカンボジア料理がどれもおいしかった。

しかし、そんな辛い生活を忘れさせるほど、子供に勉強を教えるのは楽しかった。授業に積極的に参加す

自分で考え

自分で判断できる力

文化交流学科4年次 鈴木麻由

ウルルン滞在記みたいだ！と思える天気に参加した1年の時から月日は流れ、今回は3回目のプログラム参加です。

前回友好学園を訪れた8年と比較すると、村の生活は格段に便利になっていました。電気が通ったことによりポンプ式の井戸が電動になり、土の道は砂利で舗装され、往來には以前はほとんど見かけなかった自動車が目立ちました。とはいえず、工業製品が増えた市場のすぐ近くには相変わらず放し飼いの牛がいて、子豚なんかも歩いていきます。ダイナミックな発展の潮流と村のゆっくりとした時間の流れは、不思議なバランス

の子もいれば、後ろの方でつまらなそうにしている子もいたけれど、話してみればみんな素直でいい子だったし、放課後遊びに来てくれた子に来年も来てくれと言われた時はなんだか嬉しくなりました。私達の授業が子供達にとつて役にたったかは分からないけれど、カン

ボジアの大学生の協力もあり最後までやり通すことができて良かった。最後に一緒に旅をしてくれた先輩、友好学園で関わった人、カンボジアの学生、先生、子供達、あとカンボジアにありがとう！

自分で考えて判断ができる、という当たり前のことがどれほど尊いことか。そして、それを可能にする教育の大切さについて改めて考えさせられました。

友好学園で授業をしていると、「Think about others feelings (自分のことよりもまず、相手のことを考えなさい)」という言葉が思い出します。2年前に訪れたプノンペンのスラム街の学校の壁に書かれていた言葉です。誰もがその日の暮らしで精いっぱい、という場所がこの言葉はあります。何ん自由なく生きていくのに自分のことしか考えられない……この言葉を目にして、ふん自分の行動を恥じました。カンボジアで出会った子供たちも大学生たちも、誰かのために何かをして笑顔が返ってくる、本当に嬉しそうに笑います。「思いやり」とはあ

りきたりな言葉ですが、彼らといると、豊かさや幸せって心の中にあるのだなあと気付かされます。授業はなるべく、子供たちがこの先日本語の勉強を続けたいような「キツカケ」を与えるような内容にしようと思いがけました。毎日反省点は出てくるものの、それをどう改善するかメンバーみんなで話し合い、知恵を出し合って解決へ導く過程はとても楽しく、また勉強になりました。昨日よりも子供たちに伝わった、昨日はできなかった問題がクリアできた、と実感できる瞬間は全ての疲れが吹っ飛ばさうといううれしかったです。

このプログラムで出会った仲間みんなが集まって語り合えたらいいな。胸を張って子供たちとまた会えるように、自分なりに精いっぱい生きよう。

子供たちが見せてくれた屈託のない笑顔、満天の星空の下で毎晩際限なく続く仲間との雑談、ふと「お腹いっぱい青春できたなあ」と思うと涙がこぼれました。いつか私たちの授業を受けた子供たちが大学生になって、茨キリの後輩と交流してくれたりいいな。いつか、子供たちと



瀧野ゼミ交流会 西洋絵画を満喫



左から：佐藤さん 瀧野先生 前列：小森さん

私達は8月3日に瀧野修先生のゼミの交流会で笠間市にある日動美術館に行きました。当初は先輩を含めて10人以上が参加する予定でしたが、女性の先輩方が急用で来れなくなりましたので、先生を含めた男だけの暑苦しい交流会になってしまいました。(もつと熱くなれよ!!)

まいりました。特にゴッホは私達がプレゼンで取り上げた画家なので、親近感が湧きました。

入館する前に記念撮影をし、館内の見学をはじめました。広い館内では数多くの西洋絵画や彫刻、デッサンを拝見しました。特に印象に残ったのは、それぞれ、佐藤はクロード・モネ作『ヴェトウイユ、水びたしの草原』、小森はフィンセント・ファン・ゴッホ作『サン＝レミの道』でした。

館内を一通り見学して美術館を後にし、いよいよ待ちに待った食事会です。先生の仰っていたフランス料理のお店は跡形も無くなっていたので、急遽ロシアレストランに向かいました。そこではランチメニューの他にピロシキやボルシチを注文し、食事をご馳走になりながら将来の事についてアドバイスを頂きました。

『サン＝レミの道』でした。両作品とも印象派の持ち味がでていて、目を引いてし

こうして交流会は終わり、西洋の雰囲気を楽しんできた一日でした。みなさんも美術館に足を運んでみてください。西洋拔群だよ!!

「文化交流学科 3年次 小森友弘・佐藤雅則」

岩間信之先生ロングインタビュー

地理学と空手

——学生時代に、どういうことをやっていましたか。

もともと、観光学ではなくて人文地理学が専門なんでしょう。なかでも都市地理学。つまり、「都市って何だ? 住み良い街ってなんだ?」ということを調べる学問。地理っていうと、どこにカンボジアがあつて、どこにイギリスがあつて、何とか海があつて山があつて、みたいなことを暗記する退屈な科目という印象が強い。でも、本当の地理学は奥が深い。都市地理学というならば、この街はどういう自然環境の中にあつて、どういう人たちが住んでいて、どういう歴史や文化が培われてきたのか?…これらを踏まえた上で、これからどういう街を作ればよいのか、みたいなことを考える。大学の頃から地理学を専攻していたけれど、本気で勉強したのは大学院に入ってから。

あと大学・大学院時代は、空手をやっていた。いまは全

編集部長が、「観光学」や「人文地理学」を担当されている岩間先生にインタビューをしました。
前後篇の二回に分けて、お送りいたします。(文責:編集部)

然練習してないけどね。通算で10年ぐらいやってきたかな。あとは古武道。鹿島神流っていうんだけど。あの頃は、ほかみたいにならなくていい。そうすると、田舎にマンションができて、都会からやってきた新住民が増える。田舎の人と都市の人では、生活スタイルや物事の考え方が全然違う。田舎の人たち(旧住民)は、地域の祭りなどを大切にする。でも、新住民は忙しいので田舎の祭りに参加する暇がないし、興味もない。それで、地元の活動に参加しなくなる。そういうことが積み重なって、新住民と旧住民が不仲になり、色々なトラブルが生じる。そういうことを論説文で読みながら、「そうだよなー、これおもしろいなー」って思った。

国語の論説文から

——都市地理学をやるうえで思ったきっかけは、何ですか。

もともと、受験勉強の国語で論説文を解くのが好きだったんだ。論説文って社会問題を扱っている場合が多いでしょう。あれを読んでいると、すごくおもしろいなと思う。これって何の分野だろうって不思議に思っていた。例えば、東京で働いている人の多くは、都心は家賃が高い

ので、郊外に家を借りたり建てたりして住み始めるじゃない。そうしたら、都市地理学でも似たようなことやっているので、都市地理学の勉強にハマっていったって感じ。

天文学↓社会学↓地理学

——社会学は昔から、目指していたのですか。

一番始めは、天文学者を目指していたんだよ。中学校の頃までかな。天体望遠鏡を買ってきてたくさん星を見て。夜中、友達数名と田んぼ道を天体望遠鏡かついで星の見えるポイントに出かけてね。たまに警察官に職務質問されたりして。その時、天文学って何だかよくわかってなかったんだ。星がすごくきれいだから、これかっこいいなと思ったのね。でも、天文学

って物理学的な一種なんだよ。で、高校の物理でコケた。さっぱりわからん。でも、天文学をあきらめきれなくて、大学1年生のときに天文部に入った。そこで本当に天文学に没頭している連中と知り合っただ。そこで初めて知ったんだけど、俺みたいな素人は星を見て遊ぶ。だけど、本当に凄いやつは軌道計算とかするわけ。パソコンで星の動きをシミュレーションとかして喜んでるわけよ。プロは天体望遠鏡で星を見て遊ぶのではなく、電波望遠鏡で送られてくる数字の塊を解析する。それが楽しいらしい。俺はただ「○○星雲はきれいだな」とか、そんな程度だったのだから、あんな程度だこりゃ」と思っ

地理学はシンプルだし、

リアリティがあつて面白い



岩間先生の研究室にて

て物理学的な一種なんだよ。で、高校の物理でコケた。さっぱりわからん。でも、天文学をあきらめきれなくて、大学1年生のときに天文部に入った。そこで本当に天文学に没頭している連中と知り合っただ。そこで初めて知ったんだけど、俺みたいな素人は星を見て遊ぶ。だけど、本当に凄いやつは軌道計算とかするわけ。パソコンで星の動きをシミュレーションとかして喜んでるわけよ。プロは天体望遠鏡で星を見て遊ぶのではなく、電波望遠鏡で送られてくる数字の塊を解析する。それが楽しいらしい。俺はただ「○○星雲はきれいだな」とか、そんな程度だったのだから、あんな程度だこりゃ」と思っ

一方、地理学は現場に入っていろいろな人の声を聞く。その分、地理学はシンプルだし、リアリティがあつて面白い。地理学を研究していると、テレビ出演やえらい人たちの前で講演やらを頼まることが結構あるんだ。先月は農林水産省で1時間ほど講義してきた。農水省の局長やら経済産業省の上席研究員やら日本経済新聞の編集長やら、なんだかすごい人たちがたくさん来ていたよ。

観光学だからできること

——先生は観光学の授業もさかかっていますが、今後私達は観光をどのようにとらえていけばよいとお考えですか。

これまで、地域の自然や歴史、文化は基本的に無視されてきた。例えば、浦安という場所にはみんな興味がない。

だけど、そこにデイズニードができるよ、みんなデイズニードには行きたいと思う。みんなデイズニードは大好きだけど、浦安の個性とか風土などには興味がない。誰も目を向けない。でも、観光学という考え方が広まると、いかにその土地の魅力のアピールしていくかが重要となってくる。パブル経済の終焉以降、消費者もあつきたりのアマミューズメント施設に飽き始め、むしろ自然や地域文化をのんびり満喫する余暇行動を求め始める。いわゆるグリーンツーリズム。観光産業はお金になるので、地元の人も自分たちが生まれ育った地域の自然や文化を大切にしよう。これはツールとして使えるなと思った。たとえば、地理学で「日立ってこんなに良い所なんだよ」って言っても、誰も話を聞いてくれやしない。でも、「日立を観光地として見てみましょう。こういうことをすればお客さんがいっぱい来るから、街が元気になりますよ。でもお客さんと呼び込むためには、まずは自分達の土地の魅力をみんなが認識して、守って行く必要がありますよ」って言うよ、みんな喜んで自然保護や文化保護に動き出す。地域の良さを守り、街を活性化させていく上で、観光学は有効な手段となる。

日立を元気にするには

——例えば日立をもっと盛り上げるために、観光という視点でアピールすればいいのですか？

観光って、ただ観光客を集めてお金を落としてもらおうというだけじゃない。要は交流人口っていうのかな。街にやってくる人の数を増やすことが大切。観光客じゃなくても良いんだよ。例えば、セブンイレブンが幹部会議を日立で開くとすると、全国からいろんな人が集まってくるでしょう。社員とか取引業者とか。みんな市内のホテルに泊まるだろうし、ご飯も食べる。お酒だって飲む。それで、十分じゃない。それだって、街が活気づく一つのツールになれるわけ。会議が頻繁に開かれれば、街が情報の拠点になるから色々な企業が集まってくる。経済波及効果が高まり、街は元気になるよ。

抜群の素材が眠る

最近では環境教育の場として観光が注目されている。現地に出かけてみんなでエコを考えようという、学習型の旅行形態。年配の方を中心に人気なんだよね。何がエコ活動なのか、どうすれば地域の自

然を守ることができなのか。それを考える場を提供しましょうっていうのも観光。この点で、日立市はポテンシャルが高い。

工場城下町というイメージが強いけど、全国に先駆けて

いち早く環境保護運動に立ち上がったのも日立なんだよ。大煙突の話、聞いたことないかな？ 例えば、足尾銅山は環境保護に失敗して、いまでも山は木が生えないほど荒れている。だけど、日立の場合には足尾銅山と同じ規模の鉱山があったにもかかわらず、緑が残っている。これは、当時の地元住民や鉱山が緑を守ろうと立ち上がり、公害対策に乗り出したおかげなんだ。これはすばらしいこと。煤煙対策で植えた桜の木が、今では日立の山をきれいに彩っている。環境保護の重要性を学ぶ上で、日立は優れた学習の場なんだよ。

環境保護の重要性を学ぶ上で、

日立は優れた学習の場

立の工場は兵器を作っていた。空襲や艦砲射撃で日立が焦土と化した後、日立は平和産業都市として復興を遂げる。だから、日立では平和教育ができる。日立には立派な温泉があるわけでもないし、自然だってそんなにきれいなわけではない。いわゆる観光地としては正直魅力があるとは思えない。だけど、環境教育や平和教育の場として考えた場合、日立には抜群の素材が眠っている。

新しいターゲット

東京には、毎年何十万人という数の修学旅行生が集まっている。全国から毎年必ずやってくる。みんな遊びに来



ているんだけどさ、秋葉原とかお台場とかデイズニードとかに。でも、修学旅行は学習の一環だから、ちよつとは勉強して帰らないと大義名分が立たない。だから、修学旅行って必ず何らかの学習を混ぜるわけよ。高校・中学の先生は困っている。「東京で学生たちに何を勉強させれば良いんだろう？」って。そのときに、「日立には抜群の教育環境が整っていますよ。しかも特急で上野から1時間の距離ですよ」と宣伝すれば、

コーヒー好きの、空き缶コレクション

——そういえば、以前、空き缶を集めていてお母さんか誰かに、捨てられてしまったっていうお話を聞きました。

一時期はすごかったんだよ、コーヒーの空き缶コレクション。燃えないゴミ袋5袋分ぐらいあったかな。全部違う種類の缶だった。今はコンビニが普及したせいなのか、空き缶の個性がなくなっちゃった。コーヒーを

効果抜群でしよう。もともと、「日立」は日立製作所のおかげで世界的に知名度のある地名だしね。東京には毎年、自動的に修学旅行生が集まってくる。彼らを日立まで引張って来られれば、大きな産業になる。彼らはご飯も食べ、宿泊だってするだろう。第一、交流人口が増えれば街が元気になる。これも観光だよ。ちよつと、戦略的すぎ

るかもしれないけど。そういう意味でも、観光って地域の活性化に使えるでしょう。

作るメーカーも大手に限られてるしね。でも俺が学生だった一九九〇年代には、まだ弱小メーカーがいっぱい残っていた。地方に行くと、何じやりやっていう缶コーヒーがいっぱいあった。俺は学生のころから日本各地を出歩いてきた。怪しげなよろず屋さんにいくと、怪しげな缶コーヒーがいっぱい売ってる。それらを買ってきては、喜んで飲んでいたよ。たいてい不味いんだけどね。飲み終えた缶はきれいに洗って保存した。でも、留学している際に全部



先生の空き缶コレクション

かなか飲めなかったんだよ、暑い日のアイスコーヒー。今でも、アイスのブラックコーヒーってないんじゃないのかな、ヨーロッパには。

味はブラックにかぎる

——その中でも、一番好きなシリーズはありますか？

やっぱり年とともに好みは変わっていくんだよ。俺は、大学生の頃から缶コーヒーばかり飲んでいただけで、当時は甘いのが好きだった。エメラルドマウンテンとか。でも、だんだん微糖が好きになってきた。いまではすっかりブラック派だね。

初めてブラックの缶コーヒーを見たときはショックだったよ。俺が大学の2年生だったかな。ちよつと一人で九州を旅していたときに、どこかの町をふらふら歩いていたら、ブラックの缶コーヒーが売っていたんだよ。「ええ、ブラック？？」って驚いた。今はブラックが缶コーヒーの主流だろうけど、一九九五年当時は、ブラックの缶コーヒーはセンセーショナルだった。これから缶コーヒーがどのように進化していくのか楽しみだね。

「次号へつづく」

中等教育実習を終えて

失敗を恐れず挑戦、生徒とともに成長

5月17日から三週間、中学校で教育実習をさせていただきました。

実習を通して、私は自身と向き合い、生徒に対して先を見据えた支援をすることや、学習指導の基礎的な知識と技術を養うことができた。さらに、多くの先生方からのご指導により、実習生としての生徒との関わり方や、教育に対する志を学ぶことができた。

私は、実習初日から出席確認をさせて頂き「生徒の名前を覚える」ことと「生徒のつづやきを汲み取り、平等に接すること」を心がけました。生徒は、授業中や休み時間など気軽に話かけてくれて、些細なことや悩んでいることをつづやき、教員への心の期待があるの

文化交流学科

4年次 佐々木美和

だろうと感じました。そのため、教員が良き助言者になって支援することが大切だと考えました。

実習も中程になると、一人一人の特徴や良さが見えてきて、生徒は本当に可愛いと思いました。そのため、私は、休み時間に生徒が上履きを投げたふざけ合っていた場面で、どのように注意して良いのか分らず、機会を失ってしまうこともありました。

それ以降、私は適切な注意をすることで『生徒への気付きを支援したい』ということを通して、他の生徒の様子にも気を配りながら適切な言葉を掛けることに気を付けるようにしました。

研究授業にあたり、先生方のご指導のおかげで指導案を作成することができました。実際は、指導案通りにいかない部分もあり、学級ごとの雰囲気や、学級ごとの指示

や、全体を見渡しながらい間指導をすることに気を付けたいと考えました。

それ以降の実践授業では、先生方のご指導に加え、他の実習生から自分にはない良さを学び取ることができました。

導入で体をほぐすウォーミングアップをしたり、憲法を音読することや理解を確かめたり、機間指導では生徒と目線を合わせ、赤ペンで二重丸やコメントを残したりすることをしました。それにより、授業を通して生徒の様子を落ち着いて見ることができ、自由発言や、手を挙げるなど積極的な姿勢が見られ、嬉



富士山五合目からの登山



とても気分が良かった

◆富士登山に向けて、準備のトレーニングをあまりしていないだったので、初めは高山病にならないか不安でしたし、九合目くらいでは、疲れている体には、傾斜が急過ぎて辛かったです。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

もう一度登りたい

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

◆登り始め、雲は私達の下にありました。こんなにも早く雲海を見られるとは思わず気分が高揚し、登山に来たんだと実感しました。

富士登山に挑戦!



下山では雨が降ることも

◆富士登山には初めての挑戦だった。正直足が動かなくなるほど辛かったが、頂上での景色、空気は最高だった。私はこの経験から仲間との支え合いの大切さ、やればできるんだという事を学んだ。とても貴重で忘れられない経験となった。

やればできるんだ

◆富士登山には初めての挑戦だった。正直足が動かなくなるほど辛かったが、頂上での景色、空気は最高だった。私はこの経験から仲間との支え合いの大切さ、やればできるんだという事を学んだ。とても貴重で忘れられない経験となった。

【1面から続く】

くれたり、先生も何度も教えてくれたりした。それでも分らないことも多いが、その時はもう、笑うしかない。留学でできた友達、みんなさまざまな国から英語を学びに来ていた。韓国、中国、スペイン、イタリア、ロシア、インド……聞いたこともない国から来ている人もいて、一気に自分がグローバル化したような気分だった。

とにかく楽しかったのは、昼休みの食堂でのおしゃべりや、放課後・週末に約束して遊んだりしたことだ。話題になるのはやっぱりお互いの国のことで、母語を教えあったり、コインを交換したりした。約束するときは、何時にどこで待ち合わせるのかを、何度も確認し合った。そんなことで苦勞するの、なんだか新鮮で面白かった。相手が何て言っているのか、何が言いたいのかわからなかったり、伝えたいことがうまく伝わらなかったりすることなんかしょっちゅうだ。でも、だからこそ、本当に分かりあえて、笑いあえたときは、最高の気分

になれた。この留学で出来た友達は、私にとって仲間であり、家族であり、宝物だ。必ずまた会うことを約束し、何度もハグをした。本当にあつという間で夢のような一カ月だったが、この短い間に私は、さらなる向上心を得ることができた。今までにはない、強くなりたいと思えるものも見つかった。向上心が薄れないうちに、何事も経験！の精神で成長を続けていきたい。

IT社会と情報管理の現状

6月25日、情報とセキュリティの講演会がありました。日立製作所日立市情報政策課の川崎建雄氏と日立市情報方をお招きし、IT社会の現状や情報管理方法についてお話しいただきました。

新しいIT技術の普及が著しい今日、情報とセキュリティが特に重要視されています。このような中で、日立製作所ではIT技術への理解・認識の不足や業務へのモラルの低下などにより、



川崎建雄氏

セキュリティリスクが増大している問題視しています。その対策のため、機密情報漏洩防止三原則を提唱し、全社員が意識を持つようにしたそうです。この機密情報漏洩防止三原則というのは、機密情報を原則社外へ持ち出さないこと、持ち出す場合は上司の承認を得ること、セキュリティ対策を必ず行うことです。日立市役所は、自治体組織として社会的責任が大きくなり、そのため、情報セキュリティポリシーを報せキリティガイドブックを市役所で発布しているそうです。このガイドブックは、情報漏洩を守るため、職員が日常の業務に



館岡司氏

おいて知っておくべき情報を、「何を」「何から」「どのように守るか」という視点で具体的にまとめてあるそうです。

日立製作所も日立市役所も、個人情報などの漏洩を防ぐため、さまざまな対策をしているということが分かりました。

お二人のお話を聞いて、重要なのはひとりひとりが情報セキュリティに対する意識を持つことではないかと感じました。私たちもパソコンや携帯を使います。セキュリティに完全な対策方法はありませんが、出来る限り漏洩を防ぐためには、自分の情報は自分で守るということを念頭に置き、セキュリティに関する知識を十分に把握しなくてはいけないと感じた講演会でした。

【編集部 国井】

大回廊計画に注目!

染谷 智幸

今年の夏、最大のニュースは何と言っても、文化交流科の、東南アジア諸国を文化交流の輪でつなごうという「大回廊計画」が茨城新聞「8月13日朝刊」の一面記事を飾ったことでしょう。一面しかもトップ、菅直人首相の記事より目立ったのだから驚きです。

ですが、本当に良い旅になりました。特にベトナムでは色々勉強になりました。たとえば、ベトナムのフエという古都（日本で言えば京都や奈良にあたる）に行った時でした。当地にボランティアや会社の派遣で来て、日本語教育に携わっている若い方たちに会いました。彼らの一人からこんな話を聞きました。

「梁谷先生。この町では日本人というだけで職があるんですよ。昔から、日本の先輩たちがこの町に来て、日本との交流や、この経済発展に寄与されたものですから、このみなさんも日本を大変良く思っているらしいです。そういう交流の努力をされた先輩たちに僕は本当に感謝しているんです」と。

りません。たとえば、怪しげなODAの投資や、エコノミクスアニマルと蔑称された日本人派遣社員の狂騒ぶり、また現地妻や売春の話などもありました。この辺の話については昨今、宮城大蔵さんが『海洋国家』日本の戦後史（ちくま新書、08年）に書かれていますから、一読をお勧めします。でも、中島みゆきの歌「地上の星」じゃないけれど、実際は多くの真面目な方たちが、頑張ってきたのだと改めて感じ入った次第です。

似たような話は前から漏れ聞いてはいましたが、実際にベトナムで頑張っている若者から直接聞く感慨も一入でした。日本の東南アジアへの投資・開発は、戦後日本の復興を支えた柱の一つですけど、手放しで称賛されてきたわけでは

ありません。たまたま、怪しげなODAの投資や、エコノミクスアニマルと蔑称された日本人派遣社員の狂騒ぶり、また現地妻や売春の話などもありました。この辺の話については昨今、宮城大蔵さんが『海洋国家』日本の戦後史（ちくま新書、08年）に書かれていますから、一読をお勧めします。でも、中島みゆきの歌「地上の星」じゃないけれど、実際は多くの真面目な方たちが、頑張ってきたのだと改めて感じ入った次第です。

ご存知のように、文化交流科では学科主任の齋藤先生を中心に、東南アジアをめぐるプロジェクトが進行していますね。その先生方がプロジェクトの件で茨城新聞のインタビューを受け

「大回廊計画」にみなさんも参加しませんか。

今年夏はベトナムへ10日間（教員のみ）、韓国へ8日間（学生引率）出かけたわけ

です。今年夏はベトナムへ10日間（教員のみ）、韓国へ8日間（学生引率）出かけたわけ

就職活動 報告

内定獲得！ 就職活動は長く、大変

文化交流学科 4年次 笹沼綾乃

就職活動のきっかけ

就職活動を意識したのは

は、昨年6月にキャリア支援センター（通称「キャリアセン」）が主催した就職説明会に参加したことでした。就活を経験した先輩方のお話を聞き、何をすればよいのか不安になり、とても焦りました。その後すぐにキャリアセンを尋ね、相談をしました。そこで自己分析や筆記試験対策などを勧められ、R・C・A・Pのワークシートに取り組んだり、SPIの問題を解いたりしました。

いよいよ活動スタート

夏休みが過ぎると、いよいよ本格的に活動が始まります。その中でも10月にあった東京での合同企業説明会が、いい刺激になりました。大きな会場内に数々の企業ブースが並び、リクルートスーツを着た参加者が人事担当者の話を熱心に

点として、志望業界がどの分野の問題を出題するか事前にしっかりと調べておくべきでした。

4月からは金融機関の選考が始まりました。しかし、筆記試験は通過しても次の人事担当者との面接で結果を出せないことが続きました。そこで、客観的な意見をもらうためにキャリアセンの方と模擬面接を何度も繰り返し、練習を重ねていきました。

内定

私は最終的に二社から内定をいただき、県内の金融機関に進むことを決めました。

この経験は緊張しやすく、あがり症の私にとつて度胸をつける練習になりました。（この時期に私は、志望業界を自動車販売会社と金融機関に決めました。）

選考が進む中で

1月になると、県内の自動車販売会社の筆記試験が始まりました。試験は一般常識が多く、対策を進めていたSPIはあまり出題されません。そのためすぐに一般常識の参考書を買ひ、解き始めました。私の反省

また、焦らずに自分のペースで活動していくことも重要です。これからの就職活動を頑張ってください、応援しています。

アジアガール

今年も可愛い〜可愛い〜ものから、美味し〜美味し〜ものまで大量入荷です。



季節はすっかり秋。秋の一大イベントといえば、やはり学園祭!! 私たちは今年も、アジアガールを開催します。夏休みにカンボジアでボランティア活動を行った際に、実際に私たち



目惚れしてしまい、自分用にもたくさん買ってしまっただけです。日本では見ることができない、いごちやごちやし市場の中で、ひとつひとつ「もうちょっと安く!! お願い!!」と交渉して購入してきた思い入れのある品々です。

また、恒例のアジアンカフェも開催します。毎年好評をいただいているベトナムの名物料理・フォー、今年もフォーに加える調味料も現地調達してきました。さらに現地



ロンゴロンゴとは南太平洋ポリネシアのイースター島で昔作られていた「物を言う板」です。この板には文字のようなのを書いてあります。この文字はまだ解読されていないそうですが、これは島の人々に歴史や情報を伝える板でした。

編集後記

◆みなさん、初めまして。最近、ロンゴロンゴ編集部に新加入しました! 個性あふれる「文化交流学」科独特の雰囲気がとても好きです。夏は韓国に行ってきました! 残りの大学生活、C科でしか出来ないことをどんどんやっていきたいと思っています! 宜しくお願いします!

【中根梨紗】

◆こんにちは。自他共に認められるロンゴロンゴ好きの国井です。最新号が出るたび夢中で読んでいた私が、まさか編集部に参加することになるなんて!! 嬉しさでいっぱいです。まだまだ未熟者ですが、頑張りますのでよろしくお願ひします。 【国井美紀】

◆今年も早いもので、あと三カ月です。しだいに秋も深まって、過ごしやすい季節となりました。この間、借楽園に行ったのですが、とても自然が豊かなところでした。湖の周りでは、ジョギングや散歩をしている人がいたり、その横の方には、同じ色の、がちょうと白鳥が一緒にいたりなど、たくさん野生の鳥達を見ることもできました。 【松本千里】